

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

1 単元名 「縄文文化と弥生文化」

2 単元目標

- ・ 日本列島に農耕が広まることでどのような生活の変化が見られるか、縄文文化と弥生文化に関心をもち知ろうとしている。 【関心・意欲・態度】
- ・ 農耕開始以前と以後の比較を通してそれぞれの生活の特色をとらえ、適切に表現している。 【思考・判断・表現】
- ・ 縄文および弥生時代の資料を収集・選択し、農耕開始以前と以後の生活の特色をまとめている。 【技能】
- ・ 農耕が人々の生活にもたらした変化や当時の人々の信仰などを理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】

3 単元について

狩猟採集の時代から農耕が広まることで、生活がどのように変化していくのか、土器や当時の道具から生活を想像していく。この単元では横浜市歴史博物館にある資料や道具、実際に作製した縄文土器や作製過程の写真や動画をもとに授業を進めていく。土器や土器作成の写真資料を見たり触れたりすることを通して、当時の人々の生活に注目し、大陸から稲作が伝わる前後の生活の変化の様子を、道具を通して考え、イメージをふくらませたい。

4 指導計画（3時間）

主な学習活動や内容（時間数） 3時間	主な資料（●）と教師の支援（◇）など
<p>1 縄文土器ができるまで （本時） 土器はどのように作られていくのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土でどのようにつくるのか考える。 ・ どのくらいの時間で完成するか考える。 ・ 形状から何に使っていたのかを予想する。 ・ 誰が作ったのか考える。 	<p>●土器つくりの写真、映像、実物 ◇土器つくりの困難さに気付かせる。</p>
<p>2 弥生土器の登場 つぼ型の土器は何のために作られたかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縄文土器と比較して何が変化しているか考える。 ・ 弥生土器を作製するのはどんな技術が必要になるか考える。 	<p>●弥生土器の写真、実物 ◇縄文土器との違いに気付かせる。</p>
<p>3 生活の変化 縄文から弥生へ生活はどのように変化していったかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具が変化することで生活がどのように変化していくか考える。 ・ 生活の変化による時代の特色を考える。 	<p>●資料（米、銅鐸） ◇生活がどのように変化していつているか気付かせる。</p>

5 本時目標

- ・土器づくりに関心をもち、当時の人々の生活の様子を考えるようにしている。【関心・意欲・態度】
- ・土器づくりの写真や土器の実物から、当時の生活を考え表現している。【思考・判断・表現】

6 本時計画

主な学習活動や内容	主な資料（●）と教師の支援（◇）等
<p>○土器づくりの過程について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが縄文土器にふれる。 ・子どもの意見 重い、大きい、ごつごつ ・知識としての「脆い」を確認する <p>・形状完成の次の過程を想像する。</p> <p>○資料（写真・映像）から、土器が出来るようになって人々の生活の変化を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煮炊きができる ・保存できる <p>○他にどんな道具ができて、生活がどのように変化したか学習する。</p>	<p>●実際に作った土器</p> <p>●土器づくりの過程の写真（映像）</p>  <p>土練り・・・粘土をよくこねる。</p> <p>↓</p>  <p>成形・・・粘土でひもを作り円形に積み上げていく凹凸が内容に竹べらや貝がらで表面を滑らかにする。</p> <p>↓</p>  <p>乾燥・・・しっかり乾燥させる</p> <p>↓</p>  <p>野焼き・・・木材を燃やし置き火を作る。同時に土器の表面を乾燥させる。木材を井げたに組み、本焼きする。</p> <p>↓</p>  <p>目止め・・・焼き上がった土器に片栗粉を水で溶いて入れ沸騰させる。</p> <p>◇どうしてここまでして土器が必要なのか、考えさせる。</p> <p>◇人々の生活が土器の登場でどう変化していったかを考えさせる。</p>

7 博物館との連携

- ・縄文土器、弥生土器の実物の借用。
- ・当時の平均寿命や人口分布などの資料の借用。